

令和6年度

学 校 評 価 表

(期 末 評 価)

東広島市立寺西小学校

学校教育目標	夢と志をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成	経営理念	〇ミッション: 確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 〇ビジョン: 「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ・児童が「学び」たくなる学校 ・教職員が誇りとやりがいをもてる学校 ・保護者や地域が通わたくなる学校
--------	------------------------	------	---

評価計画						自己評価				学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策		
							11月	2月								
確かな学力	1	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	〇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にとらえた授業づくり	〇2部会制による校内研究の推進と9本の研究授業の実施。	・教職員の意識調査 【「授業力が向上した」と回答した教職員の割合】	85%以上	97.0%	94.1%	111%	3	予定通り研究授業を行い、教職員一人一人が自分の授業実践を行うことができた。全職員の実践を集めると107事例にも及んだ。教員が算数の授業づくりやICT機器の活用方法について知識や技能を深めることができたことが授業力の向上につながったと考えられる。	A	・教職員自ら授業改善が進んだと実感できること、またそれに伴って児童の「授業が分かる」割合が増加していることはすばらしい。 ・研究授業に熱心に取り組まれ、児童の意識調査の成果に表れている。	・児童同士が関わり協働的に学習をする場面で授業で多く仕組む。そのための職員の研修を行い。さらなる授業力向上に努める。 ・今後の全国学力テストのデジタル化を見据えて、ICT機器の児童の活用実践例を増やしていく。 ・個別最適な学びの充実に向けて、自由進度学習や教科担任制などの指導の工夫や改善に取り組んでいく。 ・若手教員を対象として学級経営のポイントを先輩教員が示したり、相談し合ったりできる時間を確保する。		
					・児童の意識調査 【「授業が分かる」と回答した児童の割合】	85%以上	91.2%	94.0%	111%	3	11月よりもさらに児童の肯定的回答の割合が約3%増えた。児童の実態に合わせるよう教材研究を行ったり、ICT機器を活用した授業展開を多く組み入れたことがこの結果につながったと考えられる。	A	・タブレットPCの利用は効果的であると思うが、学力定着状況の把握と適切な課題提示がうまくできているのが疑問である。			
					〇確かな学力の定着	〇単元テスト、学力テストの目標の明確化と学力定着状況の分析と取組。	・国語・算数単元テスト平均 【正答率60%未満の児童の学年の割合】	5%以下	国1%算3%	国1.4%算3.4%	国104%算102%	3	全員が分かる授業を目指し、問題を解く場面でノートかタブレットPCかを選択させたり、ミライシードによる個に応じた問題内容や解答の即時フィードバックによって一人一人にあった技能の習熟が取り入れることができたと考えられる。		B	・分かる授業と個に応じた指導により、定着率の低い児童の割合が減少していることは大変良い。
							・標準学力調査 【正答率40%未満の児童を学年の割合】	8%以下	—	国3.1%算3.4%	国105%算105%	3	昨年度が国語3.6%、算数4.5%だったので、今年度はどちらの教科においても正答率40%未満の児童の割合を下げることであった。低位の児童も少しずつではあるが学力をつけてきている結果となった。		B	・とりこぼさないようにするのは大切だが、全体の学力、思考力・表現力が高まらないと、内容のある学習にならない。 ・PCと書く指導の両立を望む。 ・全国学力調査の結果も踏まえた取組を行うとよい。 ・支援を要する児童への取組は成果を得ているが、全体の学力も心配である。
							・寺西「教へのスタイル」に基づいた学習規律の定着。	・教職員による実態調査 【学習規律が定着している児童の割合】	80%以上	90.9%	94.1%	117%	4		教務主任を中心に、学級での指導の内容を統一し、どの職員でも同じ指導ができるようになった。各担任個々のオリジナリティを発揮しながらも、時間を守ることや時間の過ごし方など全員が統一することはできている。	A
豊かな心	2	自他を尊重し規範意識の高い心情や態度を育む	〇気持ちのよいあいさつのできる児童の育成	〇あいさつレベルの可視化。	・児童生活アンケート 【あいさつレベル「2」以上の自己評価をしている児童の割合】	80%以上	81.8%	83.4%	105%	3	大きな声であいさつをしていると自己評価をしている児童が目撃値を超えた。さらに、前期の結果よりもその割合が増加した。毎月の振り返りによって、あいさつをすることへの意識が高まったためと考えられる。	B	・挨拶については、児童の自己評価と保護者の評価に差がある。地域から見ると、個人差が大きいように思う。 ・気持ちのよい挨拶ができる児童がほとんどであると感じている。 ・声を出す挨拶以外にも気持ちのよい挨拶はあること、場に応じた言動の大切さ、人それぞれの感覚を尊重しつつ、公共心を養う取組を進めてもらいたい。	・挨拶に苦手意識をもっている児童を想定して、職員が率先して挨拶を行う。 ・否定的な回答をした児童に対して、重点的に肯定的な対応を職員がしていく。		
					・〇学校へ行くのが楽しいと思える児童の育成	・〇教職員が児童の良さを認める。 ・〇教職員「児童が日常的に感謝の言葉「ありがとう」を伝える。」	・児童生活アンケート 【「学校へ行くのが楽しい」の項目に「3」以上の自己評価をしている児童の割合】	80%以上	84.9%	87.2%	109%	3	学校へ行くのが楽しいと回答した児童も目標値を超え、前期よりもその割合が増加している。教職員が児童を肯定的に評価することに努めたり、月に1回、ありがたいの日を設定して感謝の言葉を伝え合ったりして、学校全体が受容的な風土を醸成したためと考えられる。		A	・悪いことに目が行きがちだが、良さを認めることは児童にとって良いことである。 ・挨拶は、大人や地域の方が見本を示すべき。
健康な体の育	3	健康の保持増進と体力の向上	〇運動好きな児童を育てる	〇運動の楽しさを実感させる体育科授業の実施。	・児童アンケート 【「運動が好き」と回答した児童の割合】	90%以上	88.0%	86.5%	96%	3	「運動が好き」と回答した児童は86.5%と、前期の達成地を下回る結果となった。その要因として、運動ができるイベントの開催回数が少なかったことが挙げられる。しかし、第2グラウンドの活用を開始したことで、体育科の授業の幅が広がった。	B	・「運動が好き」な児童を増やすためには、イベントだけでなく、体育科授業や日頃の地道な取組が必要ではないか。 ・目標達成に向けて、効果的な具体策を実践されている。 ・暑さ寒さが極端化して、運動に適した場の設定が困難、複数の学級で運動場を使う等の実施の工夫が必要である。	・委員会の活動内容の選定を行い、より運動に関するイベントを開催できるようにしていく。 ・第2グラウンドの活用の幅を広げ、体育科の授業での活用を増やしていく。		
					・〇体力の向上を図る。	・〇体育科授業での運動量の確保。	・教職員アンケート 【「運動をする時間が授業時間の4割以上である」と回答した】	80%以上	96.0%	100.0	125%	4	「運動をする時間が授業時間の4割以上」と回答した教職員は100%のオーセートであった。体育に関する資料の提示や、第2グラウンドの活用を始めたことが要因としてあげられる。次年度は量だけにこだわらず、質にも力を入れていきたい。		A	・新体力テストの結果も踏まえた取組も行うとよい。 ・第2グラウンドの活用をもっと増やしてほしい。 ・第2グラウンドを活用して、保育所や地域と一緒に取り組める運動等のイベントを開催できたらと思う。
信頼される学校づくり	4	安心・安全な学校づくりを推進し、地域・保護者から信頼され期待される学校	〇ICTを活用した積極的な学校情報の発信	〇学校だよりやホームページ等で積極的に情報発信する。	・学校評価アンケート 【「学校のことが以前よりわかるようになった」と回答した保護者の割合】	80%以上	83.1%	83.8	105%	3	本年度から推進している各学年のブログ公開について、2月末現在62件掲載しており、肯定的回答が増えたと思われる。しかし、感染症情報など、更なる適宜の情報発信の希望が寄せられた。	B	・保護者の参加が増えていることは、よい傾向である。活動を共にすることで、相互理解も深まると思う。 ・目標達成に向けて、効果的な具体策を実践されている。 ・市民ポータルサイトの活用は、今後の保護者には効果的であると思われる。	・市民ポータルサイトを活用して、タイムリーな情報提供と、注意喚起などの啓発活動を推進していく。 ・協力への目的等、更に理解を促す発信を行う。		
					・〇地域とともにある学校づくり	・〇地域・保護者と協働した取組を推進する。	・学校評価アンケート 【「学校は地域・保護者とともに教育活動を行っている」と回答した保護者の割合】	80%以上	86.3%	91.9%	115%	4	学校行事や授業参観等、多くの保護者に参加していただいている。PTA活動にも積極的に関わっている保護者が増えた。しかし、関わり方についての改善への要望も多い。		A	・地域への情報発信も、併せて行っていきたい。 ・保護者の関わり方については、受け身ばかりではなく、もっと自ら前に出てほしい。 ・個人情報の守秘義務に留意しつつ、情報発信は積極的に行っていきたい。
			決められた時間内で仕事をさせる働き方を浸透させ、時間外在校時間等勤務削減に取り組む	〇子供と向き合う時間の確保と時間外在校時間等勤務の削減	・〇定時退行推進日を設定し、教職員の業務改善を促進する意識向上を図る。 ・〇業績評価書における、各教職員の取組みを共有する。	・教職員への意識調査 【「子供と向き合う時間が確保されています」において肯定的な回答をした教職員の割合】	80%以上	84.9%	85.3%	107%	3	意識調査の肯定的回答が0.4ポイント向上し、業務の効率化を実感している教職員が増加している。また、時間外在校時間も減少傾向にあり、業務改善の意識が高まっている。各主任等を中心に、業務の効率化が図られている。	B		・働き方改革等により、教職員の皆様が健康で、子供とも充実感ある生活が送れるよう、取組を進めてもらいたい。 ・目標達成に向けて、効果的な具体策を実践されている。 ・効率的な働き方を目指していただきたい。 ・教育委員会とともに取り組んでってもらいたい。	
					・業績評価書に係る評価 【達成平均度3.0以上】	3.0以上	2.9	3.1	100%	3	目標値よりも0.1ポイント向上し、少しではあるが目標値を上回ることができた。成績処理日を設けたことや、各学年部がチームで協働的に業務を行ったことなどが要因だと考える。	B				

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成

2...目標をやや下回って達成

3...目標どりに達成

1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）

A...とても適切である

C...あまり適切でない

(N...判読できない)

B...概ね適切である

D...全く適切でない